

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 25日

事業所名 Kiddy四日市あくらがわ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動時に立ち入りエリアの制限をしてパーテーションで見える化している	子どもが判断に困っている部分を見つけさらに過ごしやすい環境整備をしていきたい また、肢体に不自由のある児童に対して、できる限りバリアフリー化を検討したい
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		忘れ物を防止するための、持ち物ボードを設けたり、整理整頓(2S)を心がけて、物の置き場や明示などを見える化している	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		頂いた評価を真摯に受け止めてより質の高いサービス・支援を目指していく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		保護者様から評価表を頂く以外には、第三者が介入して評価する仕組みがない
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		市や県が案内される研修会には積極的に参加したり、事業所内ではできる限り様々な研修を実施するようにしている また、他施設の見学も実施している	
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動の内容を含めて、担当も日によって変更したりして意図的に変化を与えている	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		能力向上を図るために、毎月反復して実施する活動も少しずつレベルアップや内容を変えたり、できる限り楽しんで取り組めるようにアイデアを出し合っている	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		翌日の朝礼時に昨日の振り返りを実施して、活動に関する誘導方法や、職員の配置・反省点を踏まえている		

	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			一人一人の成長過程をよく観察・分析し、より質の高い支援を目指していく	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○			実施したいと考えてはいるが、体制が取れない実情があり方法が無いかを検討中。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○			実施したいと考えてはいるが、体制が取れない実情があり方法が無いかを検討中。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				実際に支援の内容を見学しに行ったり、研修等で助言を頂いている
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				スタッフの子どもが共に施設で過ごす機会などを設け、障がいのない子どもと遊ぶ機会をつくっている
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○			県や市による会議に出席はしているが、地域の会などには開催されているかも不明なため参加できていない
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				送迎時に毎日子どもの様子を保護者に伝えている
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			お話を聞く中で、お子様への受け答えの方法を助言させていただいた事はあるが、プログラムとして家族支援はできていない
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○				保護者様から直接ご意見を伺うために公式LINEによる連絡ツールを用いている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				システムにより毎日の活動記録が閲覧できるようになっており、SNSを活用して全体の様子も定期的に発信している
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				必要だと判断した児童には絵カードを用いて対応している

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		BCP計画書を作成してスタッフ間で共有している	保護者の方々にも共有していく必要がある
	42	非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		最低年二回は実施している	南海トラフ地震の問題もあるので、訓練頻度を増やしていく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	最低限、調理活動などに使用する食材はアレルギー食材接種防止のため保護者様と共有している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		怪我や危険な行為が見られた場合はヒヤリハット事例として記録している	再発防止のための翌日朝礼時に情報共有と即時反省会も実施していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		積極的な研修の参加や年1回以上の委員会の開催をしている	法人として全体で集まり会議を実施していく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		他害、自傷、物品破損などの激しいパニックを起こしてしまった場合にまずはクールダウンエリアへ隔離し、それでも治まらない場合のみ一時的な拘束対象とする	

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 3月 25日

事業所名 放課後等デイサービスKiddy四日市あくらがわ 保護者等数(児童数)7 回収数 4 割合 57.1 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	4				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	4				
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	2			
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	4				
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	3	1			
	6 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	3			
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4				
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	2	2			
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	3			
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	2	2			
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4				
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	4				
14 個人情報に十分注意しているか	4					
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	2	2			
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	1			

満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	4				
	18	事業所の支援に満足しているか	4				
送迎対応	19	送迎は正しく行われているか	4				
	20	運動療育は役に立っているか	4				
運動療育	21	今後やってほしい療育はあるか	3	1			